

○中干し後の適正な水管理で根の発達を促進しましょう！ ○出穂前からのカメムシ対策で「斑点米」の発生を防止しましょう！

1 生育概況

【コシヒカリ】

平年に比べて、草丈は短く、茎数は少なく、葉色は平年並み、葉齢の展開は0.7葉遅れています。

【てんたかく】

平年に比べて、草丈は短く、茎数は少なく、葉色はやや淡く、葉齢の展開は0.3葉遅れています。5/2田植えの幼穂形成期は6/28頃と予測されます。

表 水稻の生育状況 (6/3調査 アルプス米標準田 コシヒカリ15か所、てんたかく3か所の平均値)

品種		草丈 (cm)	茎数		葉齢	群落 葉色	幼穂 形成期
			本/株	本/m ²			
コシヒカリ	R6	26.1	6.4	134.5	5.8	4.1	—
	R5	28.7	9.4	207.0	6.1	4.1	7/10
	平年※1	29.5	10.2	213.2	6.5	4.1	7/10
てんたかく	R6	24.3	11.1	242.2	7.3	4.3	(6/28頃)
	R5	28.2	15.0	303.0	7.7	4.5	6/25
	平年※2	29.2	13.9	295.4	7.6	4.5	6/26

※1 アルプス米標準田15か所におけるH26～R5の平均値

※2 H26～R2まで県生育観測ほ2か所、R3は管内調査ほ4か所、R4～R5は3か所の平均値

2 中干し後の水管理

参照ページ：p30

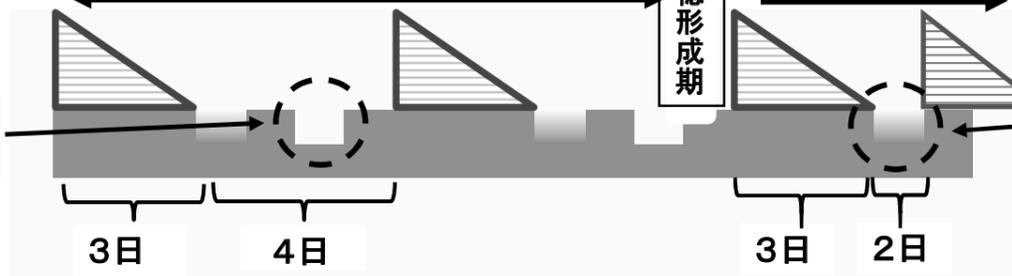


YouTube
10 中干し後の水管理

間断かん水

飽水管理(出穂期まで)

足跡の水が無くなったら入水



足跡の水が無くなる前に入水

○てんたかくは6/28頃まで、コシヒカリは7/10頃まで間断かん水を行い、足跡の深さが3cm程度になるようにしっかりと地固めしましょう。

○幼穂形成期以降は飽水管理とし、強い田干しは避けましょう。

※飽水管理は、「圃場に入水」→「自然減水」→「足跡の水が無くなる前に入水」を繰り返す水管理です。

※4日以上湛水状態が続く圃場では強制落水しましょう。

○出穂後20日間は湛水管理を行いましょう。

3 てんたかくの管理



YouTube
11 穂肥散布のポイントと注意点



YouTube
12 品種別の穂肥施用時期と施肥量

(1) 穂肥

○倒伏を防ぐため、基肥一発肥料を施用した圃場については、原則、追加穂肥は行わないでください。

○1回目穂肥は、幼穂長1～2mmを確認後、直ちに施用しましょう。

○移植日や標高により施用時期が前後するので、幼穂長を確認し施用しましょう。

○幼穂形成期前に葉色が4.0を下回る場合は、各営農経済センターにご相談下さい。

(2) 紋枯病対策(5/2田植え、幼穂形成期6/28頃、出穂期予想7/19頃の場合)

○紋枯病の多発が予想されるほ場では、防除を行いましょう。

【分施肥体系】

(10a当たり)

肥料名	1回目		2回目	
	追肥3号	6/28頃※		1回目の7～10日後
10kg		砂壌土	13kg	砂壌土以外
			10～12kg	

※5/2田植えの場合



幼穂1～2mm

随時防除	出穂14日前頃 7/5頃 ※基本防除(穂揃期、傾穂期)については次号でお知らせします。
対象病害虫	紋枯病
粉剤	バリダシン粉剤 DL(収穫14日前まで) 【散布量】3～4kg/10a
液剤(通常散布)	バリダシン液剤5 1,000倍(収穫14日前まで) 【散布量】150L/10a
液剤(空中散布)	バリダシンエアー 8倍(収穫14日前まで) 【散布量】0.8L/10a

※田植え時期等によって生育差があるため、防除時期は生育状況を確認して決めましょう。

4 斑点米カメムシ類の防除対策



YouTube
13 草刈り (カメムシ対策)

～早生の格下げの主要因は、カメムシによる斑点米！！～

草刈り運動期間：6月28日～7月7日
＜一斉草刈り日：6月29日(土)～30日(日)＞

○カメムシによる斑点米被害を防ぐためには、畦畔等の草刈りと基本防除が不可欠です。また、圃場内にノビエやホタルイが残っていると被害を助長するので、抜き取り等も行いましょう。

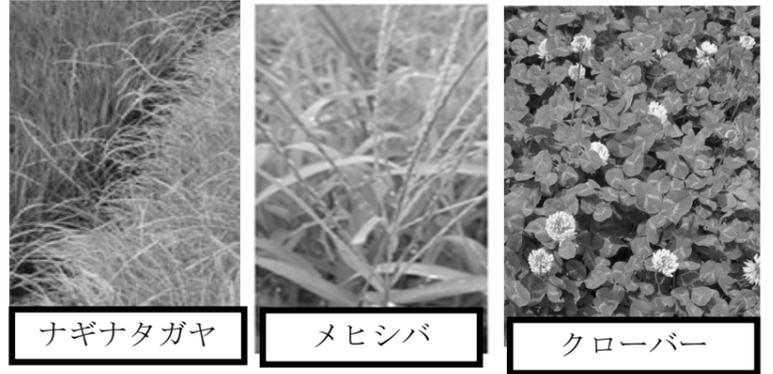
＜草刈りのポイント＞

- 畦畔や雑草地でのカメムシの増殖を抑えるため、**イネ科雑草の穂が出る前に草刈り**を行いましょう。
- 圃場内に発生した雑草(ノビエ、ホタルイ等)も、カメムシの餌になるので、雑草の発生状況に応じて適切な除草対策を行いましょう。

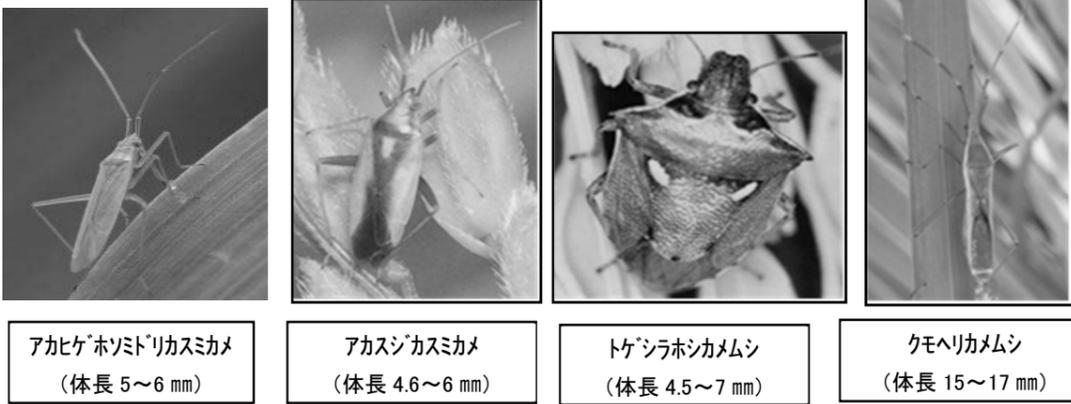
＜草刈り時の留意点＞

- 刈った草は、河川や海岸の環境保全の面から、**用排水路には流さないように**しましょう。
- 草刈り機でケガをしないよう防護装備を着用し、近くを通過する人や車に小石等が飛散しないよう、周囲の状況を確認して行きましょう。

カメムシが好む草種



斑点米の原因となる主なカメムシ



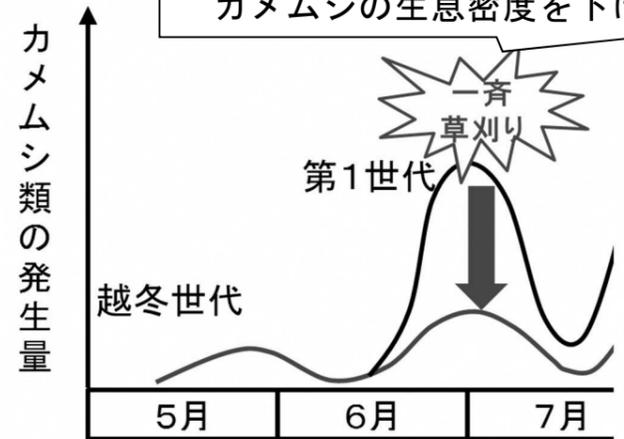
アカヒゲホリドリカスミカメ
(体長 5～6 mm)

アカシカスミカメ
(体長 4.6～6 mm)

トゲシラホシカメムシ
(体長 4.5～7 mm)

クモヘリカメムシ
(体長 15～17 mm)

一斉草刈りの実施で
カメムシの生息密度を下げよう



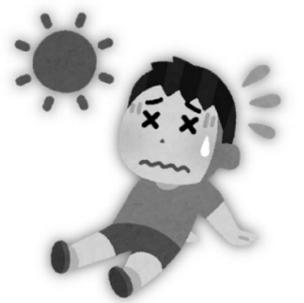
5 大麦あと圃場の適正管理

- 大麦あと圃場を放置するとスズメノテッポウ等の雑草が繁茂し、カメムシの発生源になります。
- 緑肥作物等の作付けによりカメムシの繁殖を抑え、斑点米の発生を防止**しましょう。
- 何も作付けしない場合は、**除草剤を散布するなど雑草等が繁茂しないように管理**しましょう。

【緑肥作物の作付け】

作物名	クロタラリア	ヘアリーベッチ
播種時期	6月上旬～8月上旬	9月下旬～10月中旬
播種量	5～6 kg/10a	3～4kg/10a
すき込み時期	開花始め頃 (播種後50～70日後)	水稲作付前の入水2週間前まで

⚠️ 熱中症対策をして作業を行いましょう！



＜熱中症予防のための5つのポイント＞

- ① 気温の高い時間帯を外して作業しましょう
- ② こまめに休憩、水分・塩分補給をしましょう
- ③ 熱中症予防グッズを活用しましょう
- ④ 単独行動は避け、連絡を取り合いましょう
- ⑤ 熱中症警戒アラートを活用しましょう (環境省・気象庁HP、富山防災WEBで確認できます)

令和6年度富山県農薬危害防止運動の実施

～ 守ろう 農薬ラベル 確かめよう 周囲の状況 ～